

労働者派遣法改正法案衆議院通過

本日午前中、衆議院厚生労働委員会が開催され、安倍首相が出席して質疑が行われました。安倍首相は「一般に派遣労働という働き方は、雇用の安定やキャリア形成が図られにくい面があるが、今回の改正法案は、派遣労働の道を選ぶ方には待遇を改善し、正社員の道を希望する方には道を開いていくためのものだ」と改正案の意義を強調しました。質疑の後、採決が行われ**労働者派遣法改正法案は自民・公明の賛成多数で可決**されました。

また、民主・維新・生活の野党3党が、派遣労働者と派遣先に雇用される労働者との均等待遇の実現を図るために「同一労働同一賃金推進法案」を共同提出しました。しかし維新が与党との修正協議を単独で行い、自民・公明・維新が共同で修正法案を提出しました。同修正法案は趣旨説明のみで全く審議を行わないまま、本日採決が行われ、自民・公明・維新の賛成多数で可決されました。

与党側は、労働者派遣法改正法案と同一労働

同一賃金推進法案を、本日午後衆議院本会議に緊急上程し、可決されました。

労働者派遣法改正法案は、企業にとって「安く使い勝手のよい」派遣労働を一層拡大させようとするもので、雇用のあり方に重大な影響を及ぼす改悪法案と言わざるを得ません。派遣労働者制度の世界標準の考え方である「派遣は臨時的・一時的業務に限ること」及び「均等待遇」の両方を満たしていません。審議の中で問題点が次々と明らかになってきたにもかかわらず、十分な審議が尽くされないまま衆議院通過となりました。

連合の神津事務局長は談話で「参議院で労働者派遣法改正法案の徹底審議を強く求めるとともに、同法案を廃案に追い込むべく取り組みを組織の総力を挙げ強力に展開していく」と述べました。